

《特集 西周と東西思想の出会い》

## 「西周と東西思想の出会い」特集に寄せて

村 井 洋

本特集は島根県立大学西周研究会が2004年（平成16年）から北東アジア地域学術交流財団の助成を得て行った研究プロジェクト「西周と東西思想の出会い」の成果報告である。

島根県立大学西周研究会は2002年、鈴木登本学名誉教授はじめ専門を異にした学内の有志メンバーが集ったのが始まりである。この時、学内メンバーは西周に初めて触れる「初心者」であった。幸いにして小泉仰慶応大学名誉教授、蓮沼啓介神戸大学教授、高坂史朗大阪市立大学教授、佐藤達哉立命館大学教授、宇野美恵子フェリス女子学院大学名誉教授、松島弘津和野町文化財保護委員、菅原光専修大学講師をはじめとする多数の先生方、国外からも卞崇道浙江樹人大学教授、李光來江原大学教授に加わって頂き、これらの方々のご指導の下に研究を行うという幸運に恵まれた。こうした共同研究を行う中で、学内メンバーは各々の専門性に近い視座から西周の思想に接近する手法をとることができたのである。

本研究プロジェクトの最大の特徴は、多数の研究者が共同研究を行い、多様な研究視角から西の思想と知的業績を取り上げた点にあるであろう。その領域は哲学に留まらず、倫理学、心理学、言語学、教育学、仏教学、政治学、法学などに及んでいる。それは多様な領域に知性を展開し、またそれを統一しようとした西の知的企てに対応するものであるとも言える。以上を統一科学を標榜する西の姿勢と総合政策学を掲げる島根県立大学の建学理念との繋がりを述べたものであるとすると、なお二つの点において本研究プロジェクトが西の思想の特徴と本学の建学理念とを結びつけると言えるであろう。それは、西周と伝統思想との関わりである。西周は津和野藩医の家系に生まれたものの、藩命によって儒官として藩に仕えることになった。西は荻生徂徠や朱子学を学び、洋学受容に際してこれら伝統思想の素養を働かせた。本研究プロジェクトは西の思想の伝統思想から飛躍を成し遂げた側面を押さえながら、西において保持された伝統思想の根強さにも注目し西洋のインパクトに直面して伝統を読み替えていった可能性を指摘している。第二に、西周と北東アジアにおける知識人たちとの比較可能性である。同じく儒教的伝統思想の影響下にあり、同時に西洋の衝撃（ウエスタン・インパクト）に曝された中国、韓国の思想家たちは伝統と近代の関わりをどのように捉えていたのか。これらの北東アジア思想家の態度は西周お

『北東アジア研究』第14・15合併号（2008年3月）

よび日本の幕末維新期の思想家たちと比較するときどこに共通点を持ち、どんな特色を持つのかという問題意識である。島根県立大学の北東アジア研究と西周研究が接点を持つと言える所以である。

なお、本研究プロジェクトは開始2年目に『西周と日本の近代』（ペリカン社 2005年）を中間報告として上梓した。本特集はそれを受けた緩やかな結論の集成と言うべきであろう。